ninoyu satoshi
発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ケイハンシティビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310
発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館632号室
TEL.03-3508-8632 FAX.03-5512-2632

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。　題字：柏木寛照

えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360
平成17年 No.168 5月号

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

「第二名神建設議連」現地視察

全線開通に大きな弾み

公団民営化前に具体化を、伊吹会長表明

平成15年12月22日に抜本的見直し区間とされた「大津～城陽間」と「八幡～吹田間」の35kmを含め、第二名神高速道路の全線早期建設を目指して発足した「第二名神高速道路建設促進議員連盟」(会長：伊吹文明衆議院議員)では、早急な開通をという地元の声を受けてゴールデンウィークの5月7日、国土交通省、日本道路公団、京都府知事、沿線市長、町長及び地元議員、更には地元経済界も参加して現地視察を行った。議連からは、会長の伊吹文明衆議院議員、副会長の山名靖英衆議院議員、小泉顕雄参議院議員、森岡正宏衆議院議員(奈良県)、二ノ湯智参議院議員、また自民党の衆議院京都六区候補予定者の井澤京子氏も出席した。視察前に八幡消防署で行われた要望を聞く会は、二ノ湯議員の司会により進められ、まず冒頭に山田啓二京都府知事が今回の調査の御礼を述べ、第二名神高速道路の重要性を訴え、一日も早い工事着工を要望した。その後、八幡、京田辺、城陽の各市長そして宇治田原町長ら沿線各首長の要望を聞いた。沿線各首長からは、第二名神開通に基づいた、またそれを活用した町づくりをそれぞれが計画しており、建設が突然中止されたことに対する国への強い不信感が表明され、国として開通の約束を果たして欲しいと強く訴えた。その後、一行はマイクロバスを連ねて、八幡IC、城陽ICの予定地、宇治田原トンネル付近を視察した。伊吹文明会長と二ノ湯議員は最後まで全予定地を視察した。国会議員による現地視察が実施され、知事や沿線各首長、地元議員から、第二名神建設促進へ向けて心強い限りだと喜びの声が上がった。

伊吹会長に要望書を渡す山田知事

司会をするニノ湯議員

伊吹会長、二ノ湯議員　各市町の予定地を視察

宇治田原トンネル計画ルート

城陽市消防庁舎屋上

京田辺の第二京阪と第二名神の交差付近

政府が郵政民営化法案を提出、国会での衝突は必至

小泉総理が改革の本丸と位置づける「郵政民営化」関連法案が、27日深夜の臨時閣議で了承され、通常国会に提出される運びとなった。しかし、自民党には依然反対派が根強く残っており、野党の反対も考えれば、国会での激しい衝突は避けられない模様だ。

自民党の一部議員は、内容と提出までの手続きの二側面から、民営化法案に反対している。内容の面では、民営化すること自体への反対から、民営化してもいいが、郵便・貯金・保険の三事業一体経営をしっかりして、全国一律サービスを確保すべきだというものなど、幅が広い。

自民党の郵政関係合同部会では、連日、賛成・反対の押し問答が繰り返された。党執行部が、政府との修正協議をしっかりと行うとして一任を取り付けた4月26日夜の部会まで、深夜にまで及ぶ議論が数日続いた。政府は、自民党の要求に譲歩する形で法案を修正したが、それでもなお十分ではないとして、反対派は強硬な姿勢を崩していない。

手続き面での反発は、議院内閣制の下で、小泉首相は与党から選出されているのに、法案の内容などについて、自民党をないがしろにしているのはけしからん、というものである。今回の閣議決定に至るプロセスで、党執行部が反対派を押し切って法案提出を了承したことにも、反発がある。

小泉首相の言明通り、4月中の法案提出は実現したが、国会での論戦で、反対派は法案の廃案を狙っている。小泉首相は、衆議院解散という伝家の宝刀をちらつかせ、しかもポスト小泉は改革派が望ましいと、反対派を切り崩して法案の成立を目指す。今後の国会審議から、ますます目が離せない状況である。

自民党内、「人権擁護法案」でも大激論

古賀誠人権問題等調査会長

平沢勝栄法務部会長

郵政民営化法案の他にも、党内で大激論がなされている法案がある。人権擁護法案である。この法案は、三年前の通常国会で廃案になった経緯があり、前回の提出に関係した議員らは、今国会での成立を念願している。しかし、この法案には重大な欠陥があるとして、反対派が気勢を上げている。

この法案の概要は、立入検査などの権限を持つ人権擁護委員(国籍条項なし)を全国に二万人配置し、あらゆる人権侵害を取り締まらせるというものだ。

問題とされるのは、「法案での人権の定義が曖昧なため、何でもかんでも人権侵害とされる恐れがあり、人権侵害を楯にした逆差別も横行し得る」「人権侵害だとの告発を恐れて、自由な言論が抑圧される」「外国人でも強大な権力を持つ人権擁護委員になれ、外国人の日本支配への道を開く」などである。

これは、同和問題や外国人差別の問題、監獄での取り締まり、老人や幼児の虐待など、様々な人権侵害を全て取り扱える法案にしようとして、あまりにも条文が抽象的になったために、出てきた問題であろう。

反対派は、「人権を侵害してはいけない」という理念を謳った基本法を作り、個々の問題には、監獄法の改正など、個別の立法で対処せよと主張する。対して賛成派は、個別の立法には時間がかかるし、全ての人権侵害に対処できる可能性もない。多少の不備はあってもそれを運用で補って、この法案を一刻も早く成立させ、今も人権侵害で苦しんでいる人々を救うべきだと主張する。

4月21日の自民党法務部会・人権問題等調査会合同部会で、古賀誠調査会長が、部会での反対を押し切り、強引に法案提出の一任を取り付けた。しかし、平沢勝栄部会長は、「法案の取りまとめは部会の責任であり、調査会長の一任取り付けを認めない」として、党内手続きで厳しい対立がある。

郵政民営化の騒動に隠れて、世間ではあまり知られていないが、これは日本の将来にとって非常に重要な法案である。自民党は慎重に対処していかなければならないのではないか。

東アジアの時代を築こう 王毅駐日大使、自民党外交調査会で

4月上旬に中国各地で、反日デモが起こった。特に上海では多くの日系の商店が破壊され、それに対して中国の官憲がデモを制止する様子も見せず、見て見ないふりをしていたと、日本のマスコミでは厳しい中国批判が起こった。政界の中でも、中国は信用に値する国家なのかと疑問を投げかける政治家が多い。そんな険悪な中、4月27日、自民党外交調査会では、王毅駐日中国大使を招き、「中国から見た東アジア共同体」について話を聞いた。最近の中国への関心は深く、早朝の会合にもかかわらず、約100人の衆参国会議員が駆けつけた。王毅大使は、「日本、中国、韓国と力のある国々が積極的に協力して、東アジア共同体の形成に進みたい」と強調した。そして、そのためには、「日本と中国との友好がぜひとも必要であり、お互いが脅威の存在ではなく、パートナーとしての関係を構築していきたい」と希望を表明した。靖国参拝にもふれて、「先の戦争で多くの日本人が犠牲者となった。少数の帝国主義者(A級戦犯)に責任があると認識している。したがって、首相、外相、官房長官だけは、靖国神社に参拝しないで欲しいと中曽根首相時代に要望した」と語った。教科書については「教師の指導用の本や扶桑社の教科書でも、中国側から見ると、誤解を受けやすい」と中国側の見解を表明した。今回のデモに関して、「なぜ若い人が参加するのか、日本人もよく考えて欲しい」と述べたが、それが中国による長年の反日教育の結果であるとの日本側の見解とは大きなズレが目立った。ただ大使は、「中国側も上海では、42名ものデモ参加者の身柄を拘束した」と外国からの厳しい批判に対し、弁明した。いずれにしても、大使にとっては、今回の自民党での講演は、針の莚(はりむしろ)の思いであっただろう。

品格ある日本を守り、育てる 「歴史的都市維持・再生議員連盟」発足

「日本の良き慣習・伝統・文化・宗教性を育んできた品格ある歴史的都市の維持・再生に、国家戦略として取り組もう。」このような呼びかけによって、来る5月20日に設立されるのが、「歴史的都市維持・再生議員連盟」である。

発起人には、森喜朗元首相をはじめ、綿貫民輔前衆議院議長や青木幹雄参議院会長、伊吹文明元労働大臣などの自民党の重鎮クラスに加え、公明党の冬柴鐵三幹事長など、自民・公明の与党の大物議員が名を連ねている。異文化の流入など、グローバル化が急速に進む一方で、日本文化の独自性を保持しようという機運も高まっているが、この議員連盟の発足は、まさにそれに応えたものと言えよう。

地方自治体でも同じような動きは見られる。例えば、京都市では、平成15年6月に京都創生懇談会が発足し、その提言を受けて同10月には京都創生百人委員会が設立され、さらに、本年度からは市は総合企画局に「京都創生推進室」を設け、国家戦略としての京都創生実現に向けての取り組みを強化している。

今回、議員連盟設立のために発起人の中でも特に活躍されたのは伊吹代議士であり、二ノ湯議員も、参議院議員に対する呼びかけ、議員連盟の運営に関する事務的な業務を引き受けた。設立総会の場では、森喜朗氏が会長に選任される予定である。

現在の時点で議員連盟に所属している議員は、自民党92名(衆39名、参53名)、公明党11名(衆8名、参3名)であり、今後の増加も予想されるため、近い将来に議員立法として歴史的都市維持・再生のための法律が制定される可能性が高い。しかし、財政難で公共事業が縮減されている現状では、景観保護のためであっても公共事業がどれだけ認められるのか、現実は厳しそうだ。小泉内閣の下で、外務省・国土交通省が推し進める観光立国構想や個性あるまちづくりなど、他の既存の施策とどう関係づけていくか、そこも重要な鍵になるだろう。

戦後最初の総選挙、京都で3人の女性代議士誕生

4月中旬、市内のホテルで自民党山城地域議員政策懇談会が開催された。この会の趣旨は、京都府第6選挙区で、自民党の公募による、候補予定者となった井澤京子氏を6区の支部長、役員、自民党系の市町村議員らへのお披露目であった。野中広務氏の後で挨拶に立った二ノ湯参議院議員は、「京都府では過去において、保守系から女性の国会議員は一人も誕生していない。ぜひとも、井澤さんを初めての女性代議士として送り出そう」と参加者に訴えた。これを聞いていた野中氏は、二ノ湯氏が降壇した後、すぐさまに「二ノ湯議員は若いから知らないが、戦後初めての総選挙で、山城町上狛出身の木村チヨさんが代議士に当選された」と話をされた。そんなことを全く知らなかった二ノ湯議員は、早速国会図書館で当時の新聞、選挙公報を調べた。その結果、次のことが判明した。

戦後初めての総選挙は、昭和21年4月10日に行われた。京都府全体が選挙区の大選挙区で、定員は10名で、2名連記制。この選挙では、初めて女性にも参政権が与えられ、多くの女性が立候補し、全国で39名の代議士が誕生した。京都府でも3名の女性候補者が当選した。女性の代表として議席を獲得した3名の女性当選者は、大石ヨシエ(社会党・5位)、木村チヨ(民主党・9位)、富田ふさ(民主党・3位)。しかし、衆議院は一年足らずで解散、選挙法が改正され、京都府の選挙区は一区、二区に分かれた。昭和22年4月25日に実施された総選挙に、富田ふさ氏は一区、大石ヨシエ、木村チヨの両氏は二区から立候補したが、大石さんだけが二度目の当選を果たし、富田、木村の両氏は残念ながら落選した。その当時、女性が連続して当選することはなかなか難しい情勢であった。

野中氏の指摘によって、京都府の戦後政治史の一端に触れることが出来た。

日中友好お花見会 大阪総領事らが出席

京都府日中友好協会の恒例のお花見会が4月23日、長岡天神境内の隣にあるつつじが美しい長岡公園で、駐大阪総領事館から邱国洪総領事ら4人、京都在住の中国留学生が参加し、京都府側からも、各地区協会の会員らが出席、盛会に開かれた。二ノ湯参議院議員(京都府日中友好協会副会長)も参加、「日中間には色々な問題はあるが、両国間の安定した関係が、東アジアの平和と繁栄につながる」と挨拶した。邱総領事が「大阪総領事館周辺に右翼の街宣車が来て、恐しくて心配しています」と話すと、二ノ湯議員は、「日本の右翼は危害を加えたりしません。治安当局がしっかりしていますから、安心して下さい」と激励した。反日デモの直後であったが、会場はそんな両国間のとげとげしい雰囲気は全くなく、和気あいあいの様子であった。地味ではあるが、民間による草の根交流が両国の信頼関係を深めていく上で、大いに役立つことは確かである。

中央：邱国洪大阪総領事
左側：田中彰寿京都府日中理事長
右側：二ノ湯京都府日中副会長

二ノ湯後援会、国会見学

宇多野・京北から38名が参加

国会議事堂正面にて

4月の太秦支部に続いて、今回は宇多野支部(竹村公三支部長)の呼びかけで、宇多野・京北・そして嵯峨・西院地区からも参加、総勢38名の方々が上京することになった。コースは前回と同じであるが、参加者は圧倒的に女性が多く、男性はわずか7名であった。夜の懇親会のスキヤキパーティーでは大いに盛り上がりを見せた。国会議事堂の見学は初めてという方が多く、国会議事堂正面の記念撮影では、地元の田中英夫衆議院議員、小泉顕雄参議院議員も参加した。経済情勢厳しい折、多額の会費を払って参加して下さる方々には、頭の下がる思いである。まさに足を向けて寝られないとはこんなことを指すのであろう。

身辺雑記

一、北朝鮮が核兵器を所有していると公然と表明した。ミサイルの発射実験を実施した。その上、核実験も行いそうだと言う。何とも理解しがたい国である。

一、そんな国だから、拉致被害者の救出も困難を極める。いったいどんな救出方法があるのだろう。北朝鮮と政治的・経済的につながりの深い中国がその鍵を握っていると思う。中国の影響力に期待したい。

一、大規模な鉄道事故など、10数年前の信楽鉄道以来、もう二度と起こらないものと思っていた。JR西日本福知山線の脱線事故は、今の時代に何故、こんな大事故が起こるのかという疑問が先に立った。若い人々を含む多くの人々の生命を一瞬に奪った鉄道事故。JR西日本の再発防止に向けた徹底的な安全点検対策を求めたい。

一、今年の連休はかなり長かった。従って、勉強しようと思い立って、東京から多くの資料を持ち帰った。しかし、毎日、一つ、二つと日程が入り、勉強する時間がとれず、またしても充電することができなかった。

一、春になると京都の各地で筍がとれる。私が長岡京市の筍を贈答用に使うと言ったら、西京区の人が筍は大枝の塚原が日本一やと言われた。又先日は、京田辺市へ筍狩りに招かれた。山城の筍は京都一と地元の人々は自慢する。どこでもお国自慢がある。それが又、地元の人々の生きがいでもある。

歩くことは健康の基本

第147回 みんなで歩こう湯歩会

- 日　　時：**5月22日(日)**
- 出発時刻：午前9時00分(時間厳守)
- 集合場所：地下鉄国際会館駅 4－1出口(小雨決行)
- コース：国際会館駅→国際会館正面前→宝ヶ池菖蒲園→宝ヶ池畔一周→梅林園→野鳥の森→いこいの森→宝ヶ池公園→国際会館内見学(解散)

● 新緑を求めて宝ヶ池畔を一周。自然に恵まれた風光明媚なところです。普段は見学出来ない国立京都国際会館の大会議場などを、特別に案内していただきます。コースもフラットですので、気軽に是非ご参加下さい。

● 代表世話人　北村好司郎　☎075-313-8758
(当日)090-1140-4964

第146回 みんなで歩こう湯歩会(参加者83名)

穴太寺本堂前(亀岡市)にて

「えとす」購読のお願い
月刊誌「えとす」は
毎月一回の発行です。
毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、
ぜひお申し込み下さい
年間購読料　1200円
郵便振替口座 01000-4-62360
口座名：みんなで政治を考える会

── お問い合わせ先 ──
二ノ湯さとし事務所
電話　075-315-2228

ホームページを開設いたしました
http://www.ninoyusatoshi.com